

	基礎調査報告書(基礎データ・社会情勢等)	アンケート調査	前期基本計画の検証による今後の施策展開
<p>2. 快適に暮らせるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ■生活景観の保全 ■住環境整備、土地利用の推進 ■道路網の整備 ■上下水道の整備 ■公共交通の充実 	<p>2. 快適に暮らせるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 我が国の総人口は平成20(2008)年をピークに減少局面に入っており、令和35(2053)年には1億人を下回る予測。 ○ 地方では若年層の人口流出や自然減により、都心部より早く人口減少が進行しており、今後は地方から流出する人口自体が減少し、都心部の衰退にもつながることが懸念される。 ○ 宍粟市の人口減少率は国、県と比べて高い水準で推移していることから人口減少・高齢化の影響はより大きいことがうかがえる。 ○ 宍粟市では社会増減、自然増減ともに減少で推移しており、社会減の方が大きくなっているが、団塊の世代が後期高齢者を迎えることから、人口減少が加速化する恐れがある。 ○ 全国的に道路・水道等のインフラ資産について、高度経済成長期に建設された施設・設備が耐用年数を迎つつあり、宍粟市においても適切な維持・管理・更新が求められている。 ○ 宍粟市の市道整備の状況については実延長、改良率等はほぼ横ばいとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『住みよい』と感じている市民、『住み続けたい』市民が約6割で同率となっている。 ○ 住み続けたい理由は「愛着」「自然環境」「おいしい食べ物」の割合が高く、住み続けたくない理由は「買い物・交通が不便」「仕事がない」「飲食店や娯楽施設が少ない」などの割合が高く、主に利便性や商業施設等、都市機能に不満があることがうかがえる。 ○ 「道路網の整備」「公共交通の充実」は満足度が低く、重要度が高くなっている。 ○ 「上下水道の整備」では満足度が高く、重要度は低くなっている。 ○ <u>生活するうえで困っていることや不安なことについて「病院や診療所が遠い」「路線バスの便数が少ない」「食料品や日用品を買うところがない」の割合が高く、特に北部地域では「食料品や日用品を買うところがない」の割合が高い。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活景観の保全に向け、空き家の適正管理、農地維持、里山づくり、美化活動、商店街の街並み保全を推進することで、風景街道の創造に取り組む。 ○ 増加傾向にある空き家の有効活用や公営住宅の老朽化対策、計画的な公園整備等、住環境整備とともに、空き家バンク制度の効果的な運用や定住アドバイザー等による移住者支援を進める。 ○ 市道整備を行うとともに、広域道路網の整備に向けた国県への働きかけを行う。 ○ 上下水道事業の経営改善と施設規模の最適化のために、使用料適正化の検討や施設の計画的な更新と長寿命化、ランニングコストの圧縮を進めるとともに、上下水道接続のPRを推進する。 ○ 自家用車依存度が高く、利用が少ないバス路線もある中で、幼稚園・保育所・認定こども園・小学校での子どもと祖父母と一緒に乗車体験をすることによるPR活動の拡大、地域相互扶助による移動手段の確保、ICTを活用した公共交通の活用研究を推進する。 ○ <u>各町域の中心部を生活圏の拠点とした拠点づくりを進めていくための計画策定及び利便性向上に向けた施設整備を進めている。今後、地域との協議の中で、買い物施設や医療機関も含めて生活に必要な機能を維持していくための仕組みを構築していく。</u> ○ <u>新病院の整備と合わせ、医療機関不足のエリアでの宍粟総合病院を核とした市立診療所、訪問看護ステーション等が一体となった医療体制の構築を検討する。</u> ○ <u>全てのニーズを満たすことは難しく、利用が少ない路線については、地域相互扶助による移動手段の確保など、路線バスに代わる病院や買い物といった生活を支えるための移動の仕組みを構築していく。</u>

	基礎調査報告書等(基礎データ・社会情勢等)	アンケート調査	総合戦略の検証による今後の施策展開
<p>1【住む】集落・地域の活性化と宍粟市への移住支援</p> <p>①集落・地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域コミュニティの活性化 ■再生可能エネルギーの活用支援 ■持続可能な公共交通の確保 ■地域の賑わいの創出～生活圏の拠点づくり～ ■地域包括ケアシステムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会経済活動による環境負荷の影響で、豊かな自然環境が損なわれる恐れがあり、生物多様性の確保や低炭素社会の構築に向けて、環境負荷の軽減に向けた取組が求められている。 ○ 宍粟市での路線バスの利用者数は、路線再編後の翌年に1.4倍となり、年々増加している。 ○ 近年、全国的に大規模な自然災害が多発し、災害対策の重要性が高まっており、災害時には地域住民が協力し合って救助活動を行うことの重要性が広く認識されるようになってきている。 ○ 全国的に生産年齢人口が減少、高齢者人口が増加し、人口構造が変化する中で宍粟市においても介護や医療などの社会保障関係費の負担増加が懸念される。 ○ 宍粟市の要介護認定率は横ばい傾向だが、高齢者夫婦世帯、高齢者単身世帯が増加しており、団塊の世代が後期高齢者を迎えることで、さらなる要介護者の増加が予測される。 ○ 国では健康寿命の延伸や生活習慣病の発症予防等の取組を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「参画と協働のまちづくりの推進」では満足度・重要度ともに低い順位となっているが、7割近くが地域の活動に参加しており、「地域コミュニティの活性化」が必要という意見も多い。 ○ 「自然環境の保全」は満足度が高く、重要度の順位が低くなっている。 ○ 「道路網の整備」「公共交通の充実」は満足度が低く、重要度が高くなっている。 ○ <u>生活するうえで困っていることや不安なことについて「病院や診療所が遠い」「路線バスの便数が少ない」「食料品や日用品を買うところがない」の割合が高く、特に北部地域では「食料品や日用品を買うところがない」の割合が高い。</u> ○ 日常的な買い物について、「市内の小型スーパー・コンビニ」と「市内の大型スーパー」利用者がほぼ同じ割合となっているが、「市外のスーパー」利用者も4分の1を超えている。また、一宮北・波賀中学校区で「移動販売」の利用が他の中学校区よりも割合が多くなっており、千種中学校区で「市内の小型スーパー・コンビニ」の割合が最も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ施設利用料の減免やラジオ体操の普及、ウォーキングコースの設定などを通じて、スポーツの促進により健康の維持増進等につなげている。ラジオ体操の指導員資格取得の促進やスポーツ大会の準備体操としての活用など、市民・事業者等への普及を図るとともに、保健センターを拠点としたウォーキングコースの設定や地域でのウォーキング促進を図るなど、スポーツや健康づくりに対する意識や機運を高めることで、気軽にスポーツに取り組む雰囲気をつくり、スポーツ立市宣言につなげ、スポーツを通じて「元気な宍粟」の実現をめざす。 ○ 再生可能エネルギーの活用促進として、地域において現地調査を行った小水力発電の導入のため、地域の起業に向けた支援を継続する。また、木質バイオマスの利用促進のため、ペレットや薪ストーブの導入を支援しているが、石油機器に対してコストが割高になるため、一般家庭へのさらなる普及が進んでいないため、公共施設での利用促進などにより市民の認知度を高める。 ○ 路線バスの利用者増加に向けて、乗り方動画の放映や高齢者を対象に免許証返納時にバスチケット配布などを実施している。自家用車への依存度が高く、バス利用へ踏み切れない市民は多いが、1日乗車券を自治会に配布するなど、企画型の体験乗車イベントなどを推進する。また、幼稚園・保育所・認定子ども園や小学校で、祖父母を巻き込んだモビリティマネジメントを推進する。 ○ <u>各町域の中心部を生活圏の拠点とした拠点づくりを進めていくための計画策定及び利便性向上に向けた施設整備を進めている。今後、地域との協議の中で、買い物施設や医療機関も含めて生活に必要な機能を維持していくための仕組みを構築していく。</u> ○ <u>新病院の整備と合わせ、医療機関不足のエリアでの宍粟総合病院を核とした市立診療所、訪問看護ステーション等が一体となった医療体制の構築を検討する。</u> ○ <u>全てのニーズを満たすことは難しく、利用が少ない路線については、地域相互扶助による移動手段の確保など、路線バスに代わる病院や買い物といった生活を支えるための移動の仕組みを構築していく。</u> ○ 地域包括ケアシステムの構築に向けて、保健や医療、介護等の専門職による支援と家族、近隣住民等による支援との連携を深めることや地域の見守りや支え合いの地域づくり、担い手づくりが必要。医療と介護の情報共有等ネットワーク形成による在宅生活におけるサービス提供体制の整備や専門職同士の連携、地域住民等と協働する地域連携による包括的な支援体制を整える。 ○ 多くの自治会で実施されている「いきいき百歳体操」について、リーダー不足や実施場所の問題から未実施となっている自治会への普及を図るとともに、自主的な地域の見守り拠点として取り組めるよう支援していく。